



らくびお 楽 Bio 通信

2025年
11・12月号

～ラクアの大切なお客様へ製品や健康関連の情報を発信～

乳酸菌革命記

ニオイのもとって年齢ではない！？



加齢臭というと、中年以後の男性が標的にされますぐ、加齢とともに臭くなるわけではありません。生活の乱れとか、おいしい物を食べすぎるとか、お酒を飲みすぎるとか、添加物や調味料がたくさん入った物を食べるとか、あるいは抗生素質や薬の飲みすぎなど、ほかに原因がたくさんあります。

若い人だって若いなりにホルモンの分泌が活発ですから、特有のフェロモンのようなニオイがあります。世代によって体臭はそれそれぞれあるものです。中年は中年のニオイで、それだけ取り上げて加齢臭などというのは中年いじめです。

体臭は生活習慣による影響が大きいのです。食べすぎによってタンパクの多い状態になったり、あるいは腸内の有益菌が減少したりすると、消化道に硫化水素やアンモニアなど神経毒ガスが多く発生します。これらは小さな毒性分子であるとともに、体液に溶けやすいため、汗になって蒸発し、体表の嫌なニオイのもとになるのです。

それに世界を見たら、日本人はモンゴル人と並んで、一番体臭のきつくな民族です。いまの日本の加齢臭問題は、それを理由に石けんなどの対策品を売ろうとする商売の人たちが話題づくりをわざとしているところが見えます。

年齢や性別に関係なくニオイの悩みといえば、すべて細菌の問題です。口臭の問題があります。口臭も口の中だけでなく、胃が悪かつたり、腸内菌のバランスが悪かつたりすると匂います。ですから共生性乳酸菌を十分に身体の中に入れてやれば、嫌なニオイは数週間で消えます。また匂っても、嫌なニオイではなくなります。人間は嫌なニオイは避けますが、よいニオイなら、もっと嗅いでいたいと感じます。ニオイの問題はかなり個人差があり、微妙な問題ですから、何でも「におわなくする」と一面的に考えない方がよいのです。

日本では、わきがは病気扱いで、手術や治療を考える人が少なくありません。これは少し考えすぎです。たとえば、モンゴル人も日本人も、ヨーロッパの人より目が小さくても、鼻が低くても、それを病気というでしょうか？

世界の6分の5の人は、日本でいう「わきがレベル」の人たちです。黒人は90%、白人の100%は長い汗腺を持つタイプですが、汗の成分は塩水のような物質だけではなく、脂肪やタンパクなども含まれます。それらが大量に出る際に、体臭をつくるバクテリアが付きやすくなります。短い汗腺を持つモンゴロイドの集団は、その遺伝子を持たない人が90%以上なので、体臭がきつくなくて、ニオイがあつても耐えられます。

わきがをなくすためにレーザーで汗腺を焼く人がいますが、これは考え方のものです。汗腺と汗は必要なときに体温を下げるために身体についているクーラーです。また脇から汗が蒸発するのは老廃物を出すことです。もしここを焼いて塞いでしまったら老廃物や毒素は、身体のどこかに溜まります。脇であれば、その近くにある乳腺に溜まりやすくなります。そうすると、これは乳腺がんの原因にもなってしまうのです



【『NS乳酸菌が病気を防ぐ』より抜粋】

